

(学校番号062)

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【片柳小学校】

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」「読むこと」 算数「数と計算」「変化と関係」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。	⇒	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組む【自習時間・長期休み・授業中に実施】 PCを毎日持ち帰ることで、家庭学習においても「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等に取り組めるようにする【学年ごとに順次実施】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「書くこと」「読むこと」 算数「図形」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実させていく必要がある。	⇒	積極的にICT機器を活用することで、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。【毎時間】

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「情報の扱い方に関する事項」の平均正答率において、全国平均を上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」において「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。算数の「図形」の問題において「示された平行四辺形をかくために、コンパスの開く長さを書き、コンパスの針を刺す場所を選ぶ」問題に課題が見られた。理科の「地球を柱とする領域」の問題において「氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解しているかどうかをみる」問題において課題が見られた。
思考・判断・表現	国語の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる」問題と「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。算数の「伴って変わる二つの数量の關係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見いだし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる」問題で課題が見られた。理科の「水の温まり方について、問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる」問題に課題が見られた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等を活用し、基礎的・基本的な内容の反復・習熟に取り組むことを自習時間や夏休みの課題として行うことができた。 学年によっても徐々にPCを毎日持ち帰ることは行えているが、「スタディサプリ」や「ドリルパーク」等の家庭学習の取り組みについては自主的に行っている児童もいる反面全く取り組みない児童もいるなど課題が見られる。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科の授業において、教員も児童も積極的にICT機器を活用することで、「わかった・できた・楽しい」を引き出すことができた。	変更なし

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

※評 価

A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)